

東野村の寺子屋の時代

ひがしのむら えどじだい こうか
東野村では、江戸時代の弘化5年(1848年)までは右の地図で示したように今の宗久寺のお墓の一番上辺りにあったところで読み書き・そろばんを教えていました。

ちが なら てら じゅうしよく
今と違って、習いたい人がお寺の住職に教えてもらっていたそうです。



かえい がんねん めいじ まつうら さいち いたう ぜんべえ そうきゅうじ
嘉永元年(1849)から明治5年(1872)までは、松浦佐一や伊藤善兵衛の家と宗久寺の3ヶ所で私塾(寺小屋)を開いて教育を行っていた記録があります。このころの宗久寺の写真はありませんが、松浦家と伊藤家の写真は残っています。

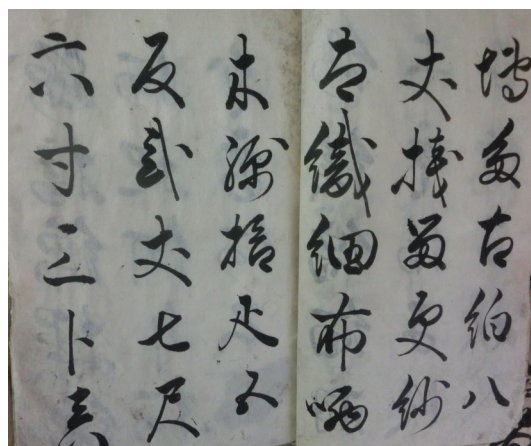


松浦家



伊藤家

くら てらこや
東野では多くの家に蔵があり、寺子屋で習っていたと思われる手本が残っている家がありました。教育といってもひたすら手本を与えられて、その手本をひたすら写すだけだったそうです。教えていた人が草刈りのために外出すると、書を写していた筆で仲間の顔に墨を付け合っ、にぎやかだったということが語り継がれています。



東野に残る弘化(1844年)の手本